

川のプロフィール

【犬上川】 いぬがみがわ

犬上川は、彦根市南部を流れ、琵琶湖へと注ぐ流域面積104.3 km²、流路延長27.1 kmの一級

河川です。北谷川、南谷川という2つの源流をもち、北谷川は伊勢参りの難所であった鞍掛峠くらがけとつげ(を源とし、流域には惟喬親王(これたかしんのう)が隠れ住んだことからその名がついたといわれる大君茅畑があります。犬上川本流の中流域に位置する甲良町の金屋には、かつて彦根藩によって保護されていた一の井の井堰があり、干ばつ解消に大きな役割を果たしていました。しかし、その一方でこの井をめぐる農民たちの争いが後を絶たず、昭和7年に起きた水騒動を機に、昭和21年には日本初の農業用水専用のコンクリートダムである犬上ダムが建設されました。



【芹川】 せりかわ

彦根市の市街地を南から西に流れる芹川は、流域面積は約65 km²、流路延長約17 kmの二級河川です。

鈴鹿山系の霊仙山ならびに高室山に源を発し、多賀町の幾筋も谷を集めて山間部から田園地帯を流れ下り、琵琶湖へと注ぎます。水質は比較的に良好で、



魚などの生息環境にも恵まれ、かんがい用水としても利用されています。また、芹川は、彦根に城下町が建設(1603年頃)される以前は、現在のJR線と芹川が交わるあたりから北に流れ、松原内湖に注いでいましたが、井伊直政が彦根城を築城する際に、今日の位置に付け替えられ、いわば城や町を外敵から守る堀の役目を担うようになりました。

